

千葉県社保協通信

2014年度 — No15 2015年 3月23日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センタービル 3F

TEL:043-225-6790 FAX:043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp

いっせい地方選 目前 !! 医療・介護・福祉を争点に 暴走政治 に 一 の声を

—2015年度県予算学習会 開く—

県社保協



県議・政令市議4月12日投票、市町村議26日投票で行われるいっせい地方選挙は、地方自治体と住民生活の行く手を左右し、安倍暴走政治に対する地方からの審判の機会となる選挙です。医療、国保、介護、子育てなどを焦点に、いのちと暮らしを破壊する政治の自治体への押し付けを許すのか、自治体の原点に立っていのちと暮らし、福祉を増進する「防波堤」の役割を果たすのかが、鋭く問われています。日本共産党丸山眞一県議を講師に、3月20日千葉市内で開催した新年度千葉県予算学習会には12団体4地域から28人が参加しました。



「重度心身障害者(児)医療費助成制度の窓口無料化実施にあたり、新たな負担増の中止等を求める署名」を広げて下さい!

▼自己負担導入の県の理由は・・・

「制度を受けていない人との公平性」「受益者負担」「子ども医療費助成を参考に」です。

▲しかし、10府県が現物給付で自己負担なし、65歳以上の完全排除は7都府県のみです。▲障千連の交渉で、県は8月実施にむけ「市町村の上乗せ部分は現物給付で対応」「状況をみて軽減も含め見直しを検討する」と答弁しています。

▲一部負担金の導入と65歳以上で新たに重度障害者となる人を排除することのないよう切実な願いを署名に託して届けましょう。

はじめに丸山県議は、国の新年度予算案は「社会保障切り捨て、大企業減税、大軍拡の三悪予算」と批判。

つづいて県予算の特徴については「高速道路建設など巨大開発にはひきつづき大判ぶるまいの一方で、福祉予算は横ばいから削減」「財政力は全国でトップクラスでありながら福祉は最下位クラス」と指摘しました。

県民の立場の欠如が歪みを拡大

●特養ホーム増設のための1床あたり補助金→400万円から450万円への引上げる一方で整備床数は1300床から1200床へ削減●重度心身障害者(児)医療費現物給付化にあたって→300円自己負担(通院1回・入院1日につき)の導入、65歳以上で新たに重度障害になった人を対象外にするなどで県民に年間約10億の負担増●医師確保のための修学資金貸付→私学の場合月額30万円が20万円に引き下げ●看護師等修学資金貸付→380名から500名へ拡充するが、国の事業で県負担は1/3になるため、枠を拡大するか全国最低の貸付額を増額すべき●難病患者の中で重傷認定をうけ寝たきりで家族介護をしている低所得者を対象に月額5000円を支給している事業の廃止など県民のいのちと暮らしを守る立場が欠如している予算であることが明らかです。

参加者からは、銚子・県営住宅母子心中未遂事件等生活困窮者に対する税・保険料の徴収強化など行政の姿勢や自治体職員の非正規化の問題など指摘する意見が出されました。